

お申込方法

①申込書にもれなくご記入の上、富士国際旅行社あてに郵送またはfaxにてお送りください。
②別途送付の「海外旅行取引条件書」をご一読ください。
条件確認後、**申込金50,000円**（旅行費用内金）を富士国際旅行社宛に下記郵便振替口座へ振込みにてお支払いください。

郵便振替口座番号 00140-4-39332
加入者名 株式会社 富士国際旅行社

（申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込み）
③旅行費用残金は出発1ヶ月迄にお支払いいただきます

必要経費の目安

ご案内の旅行費用以外に、下記の諸費用が別途かかります。

ご出発前

●パスポート（旅券）を新たに申請される方

印紙代	11,000円（5年旅券）～16,000円（10年旅券）
その他	戸籍抄本（謄本）と住民票の手数料、写真代、葉書代など

●海外旅行傷害保険（任意）

セット保険料（例）	5,340円～10,900円（8日までプラン）※詳細は手続き案内にて
-----------	------------------------------------

※ご家族用の保険やクレジットカード付帯保険対応のものまでございます。お気軽にお問合せください。

●一人部屋追加費用（お一人ご参加の方）

一人部屋希望の場合	75,000円（お一人ご参加の方）
-----------	-------------------

●前泊ホテル費用

※お申し込みいただいた時点での空室状況によって、ご案内以外のホテルになる場合もございます。
その場合は、ご連絡して再度ご利用の有無をお伺いいたします。

●手続き手数料、オプションツアー代、空港税等

※詳細につきましては、当パンフレットとお申込み後の案内書をご参照ください。

●成田空港または関西空港とご自宅までの交通費

●成田空港および保安料（2,540円）、関西空港（2,650円）

▶基本発着地は成田空港（関西空港ご希望の方はお問合せください。）

◎日本国内線の費用はお申込後にご連絡いたします。ご利用有無の決定は連絡後でも結構です。

ご旅行中

※下記の金額はあくまでも目安です。

●食事代（旅程に含まれない自由食）1,500円～3,000円

●飲み物代（飲み物は食事に含まれません）500円～1,000円（1杯）

●自由行動時の交通費や入場料など

●その他（お土産代、電話・fax、切手などの個人的費用）等

Break Time

ポーランド料理



パレスチとピエロギ

牧畜が盛んなポーランドでは肉料理が美味しいスープの種類も豊富で発酵したライ麦を使った酸味のあるジュレックは日本人の口に合う。餃子がロシアを経て伝わったピエロギや肉や野菜などを煮込む家庭料理ピゴスもある。カフェテリア方式の「バルBar」では比較的ちゃんとした食事を安くとれる。

参考文献

●「抵抗をどう教えるか」・歴史教育者協議会・教育史料出版会

●「ワルシャワ通信 日本人学校教師のポーランド体験」
・・梶原譲／渡辺克義共著・・彩流社

●「SHOAH（ショア）」・・クロード・ランスマン著・・作品社

●「アウシュビッツと〈アウシュビッツの嘘〉」
・・石田勇治著・・・・・白水社

●「ポーランド入門」・・・・・坂東宏著・・・・・三省堂選書

●「夜と霧 新版」
・・ヴィクトール・E・フランクフル著、池田香代子翻訳・・・みすず書房

●「観光コースではないベルリン」・・熊谷徹・・高文研

●「旅名人ブックス80ベルリン/ドレスデンドイツを牽引した文化都市」
・・・旅名人編集室・編・・・日経BP出版センター

旅行企画・実施

観光庁長官登録旅行業84号（社）日本旅行業協会正会員

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで



株式会社 富士国際旅行社

〒160-0022東京都新宿区新宿2-11-7宮庭ビル4階
総合旅行業務取扱管理者：太田正一

TEL：03-3357-3377 FAX：03-3357-3317
harasawa@fits-tyo.com 担当：原沢/遠藤

営業時間：月～金曜日／AM9:30～PM6:00
（土曜・日曜・祝日は休ませていただきます。）
ホームページ：http://www.fits-tyo.com/

過去と向き合い続ける国から学ぶ



第34回
歴教協ヨーロッパの旅
ポーランド・ドイツ

～解放から65年のアウシュビッツ 東西ドイツ統一から20年のベルリンへ～

クラクフ・オシュフィエンチム・ワルシャワ・ベルリン

旅行期間

2010年 8月15日（日）～8月22（日） 8日間

旅行費用

412,000円

実施人数

30名（最低実施人数20名）

添乗員

成田空港より同行します

申込締切

7月8日（木）

定員になり次第締め切ります。お申込みはお早めに



ブランデンブルク門



アウシュビッツ収容所『自由への門』

第34回ヨーロッパの旅は、ポーランド、ドイツを訪れます。
ポーランドでは、アウシュビッツ強制収容所、ビルケナウ収容所をじっくり時間をかけて見学します。スモレン元館長のレクチャーや国際青年センターでの青年たちとの交流も予定されています。ワルシャワやクラクフの美しい風景を楽しむのと同時に、過去の悲惨な戦争の傷跡を感じ、平和な社会の構築のためにどのように過去の事実を継承するのか、考えたいと思います。
ドイツでは、今なお戦後補償が進行中です。同じ敗戦国でありながら戦後歩んだ道は対照的な日本とドイツ。ドイツの人々が過去の事実とどのように向き合っているのかを学び、日本で自分自身に何ができるのかを考えたいと思います。
また、東西統一20年を迎えたドイツ。格差の進行など現在大きな課題を抱えていることが報道されています。東西統一がもたらしたものの、ドイツ社会の現状などを統一前からベルリンに在住している方に伺う予定です。
私にとっては、初めてのヨーロッパ訪問になります。アウシュビッツ解放65年、東西ドイツ統一20年の節目に訪れて、歴史を学び直したいと思います。現地の方々との交流があるのも歴教協の旅ならではの企画です。ぜひ、一緒に出かけましょう。
団長：関根千春（歴教協常任委員）

学習会・旅行説明会を7月上旬に開催

旅行を意義深いものにするため、出発前に開催します。お申込みの方全員に前回の報告集を贈呈。“旅づくり”にご活用ください。

企画 歴史教育者協議会 企画・実施 (株)富士国際旅行社

TEL：03-3357-3377 FAX：03-3357-3317メール：harasawa@fits-tyo.com 歴教協の旅担当まで

Hot Spot*

東西ドイツ統一20年

第2次世界大戦中、ナチス・ドイツはヒトラー政権の下、1945年5月敗戦した。連合軍によるドイツ分断に伴い、首都ベルリンも東西陣営によって分割統治された。1961年8月、東独政府により、西側への人民流出を防ぐためにベルリンの壁が築かれ、政治的に分断される悲劇が起こった。世界を核戦争の恐怖に陥れた冷戦の象徴的な最前線として、ベルリンは世界的に比類のない独特の都市として生きることとなった。東西分裂40年を経て、1989年の東欧民主化のうねりの中、同年11月に分断の象徴だったベルリンの壁が一夜にして崩壊。1990年10月には一滴の血を流すことなく統一がなされた。今年、東西ドイツ統一20年を迎える。今回の旅では、ベルリンの壁崩壊以前から現地在住の方との交流を予定。

日次	都 市	交通機関	行程・宿泊地・食事（朝・昼・夕）
① 8/15 (日)	東京・成田発 大阪・関西発 ヨーロッパ都市内 ワルシャワ着	航空機 航空機	午前：空路✈ヨーロッパ都市内へ（09:30~10:30の間の航空便利用予定） ヨーロッパ都市内を経由して 夜：空路✈ポーランドの首都ワルシャワへ ワルシャワ泊 BX L機 DX
② 8/16 (月)	ワルシャワ ワルシャワ発 クラクフ着	バス 列車	終日：第二次世界大戦による破壊から蘇った 世界遺産ワルシャワ旧市街見学 ◎市場広場 ●歴史博物館 ◎バルバカン（中世の砦）◎サスキ公園 ◎ワルシャワ蜂起記念碑 ◎ゲットー記念碑 陸路、🚂 城壁に囲まれた古都クラクフへ クラクフ泊 BH LR DX
③ 8/17 (火)	クラクフ発 オシフィエンチム着	徒歩 バス 約70*	午前： クラクフ旧市街見学 ◎聖マリア教会（13世紀の教会） ◎織物会館（旧市街のシンボル） ◎パベル城（中庭） ●ヤグューオ大学（コペルニクスも学んだ欧州最古の大学） 陸路、🚂 クラクフの西に位置するオシフィエンチムへ 午後： アウシュビッツ強制収容所の見学 ●記録映画…> 門（ARBEIT MACHT FREI）…> 各収容棟 …> 死の壁 …> ガス室…> 焼却炉 スモーレン元館長のレクチャー （予定） 夕刻： 国際青年交流センターで青年たちと懇談・交流 オシフィエンチム泊 BH LR DR
④ 8/18 (水)	オシフィエンチム クラクフ発 ベルリン着	バス バス 航空機	午前： ビルケナウ収容所の見学 ●見張り塔 ◎引込み線 …> 収容棟 …> 破壊されたままのガス室 …> 焼却炉 夕刻：陸路🚂再びクラクフへ 空路✈航空便を乗り継いでドイツの首都・ベルリンへ ベルリン泊 BH LR DX
⑤ 8/19 (木)	ベルリン ヴァンゼー	バス バス 約30*	午前： ベルリン戦争史跡見学 ◎ブランデンブルク門 ◎ノイエ・ヴァッヘ ●ホロコーストメモリアル 午後： ヴァンゼー会議記念館の見学 ▶「ホロコースト計画」の最終決定の会議が行なわれた舞台 夕刻： ドイツ統一以前からベルリン在住の現地の方との懇談・交流 ベルリン泊 BH LR DX
⑥ 8/20 (金)	ベルリン	徒歩 公共交通	午前： ベルリン市内見学 ●抵抗運動（レジスタンス）博物館 ▶ 国家社会主義への抵抗運動の展示館。「東方の生活圏」演説舞台 ●オットー・ヴァイト視覚障害者工作所博物館 ▶ ユダヤ人の障害者を迫害や国外追放から守るために雇っていた 午後：自由行動 夜： 打ち上げ交流会 ベルリン泊 BH LX DR
⑦ 8/21 (土)	ベルリン発 ヨーロッパ都市内	航空機 航空機	午前：空路✈ヨーロッパ都市内へ 午後：空路✈帰国の途へ 機 中 泊 BH LX D機
⑧ 8/22 (日)	東京・成田着		午前：到着 【 旅程表中の見学箇所のマーク ●＝入場して見学、◎＝下車して見学、○＝車窓から見学

●旅程表のマーク：B＝朝食、L＝昼食、D＝夕食、H＝ホテルで、R＝レストランで、X＝自由食、機＝機内食、OP＝オプション・ツアー
●機内食は、航空運賃に含まれる航空会社が提供するサービスです。有料あるいはサービスが無くなった場合は各自でお取りいただきます。
●予定航空会社：フィンランド航空/ルフトハンザ・ドイツ航空/オーストリア航空/KLMオランダ航空/スカンジナビア航空/エールフランス航空など
●宿泊予定ホテル：ワルシャワ＝ヤン・チェキ・ソビエスキ/クラクフ＝アンデルズ/オシフィエンチム＝オレスキ/ベルリン＝アルブレヒツホーフまたは同等クラス（2人部屋基準）

旅の特色

こ だ わ り ①

● 学習会・旅行説明会を開催～安心の旅に

旅行を有意義で内容深くするために、出発の約1ヶ月前に学習会・旅行説明会を開催します。
出発・集合、日程、出発前の準備はもちろんのこと、現地事情も詳しくご案内して安心の旅に。

● ただ見学するだけでない充実の内容

一般の観光旅行のように半日でアウシュビッツを見るのではなく、2日間に分け、第2収容所のビルケナウも含めてしっかりと見学。専門性のあるガイドの説明でより有意義に。

● 歴史を知るための見学場所にこだわる

ベルリンでは終日をかけて詳しく戦争史跡を巡り、第二次世界大戦がどのように語り継がれているのかを学ぶ。

旅のポイント・・・ポーランド

● アウシュビッツ強制収容所 Auschwitz (Oswiencim)

ナチス・ドイツの絶滅収容所
1940年クラクフの西60*のオシフィエンチムに築かれたナチスの絶滅収容所。ソ連軍によって解放されるまで、ユダヤ人をはじめ約110万人以上の人々が虐殺された。現在は博物館として復元され、ドキュメント映画～入口の門「ARBEIT MACHT FREI」、様々な展示がされている「収容棟」、ガス室、焼却炉などが展示されている。2010年1月27日に解放65年を迎えた。

● ビルケナウ収容所 Birkenau (Brzesinka)

アウシュビッツの第二収容所と呼ばれた絶滅収容所
アウシュビッツの第2収容所として建設される。アウシュビッツから2*ほど離れた広大な敷地を占め、面積は1.75平方km、300棟以上のバラックが並び、アウシュビッツよりさらに大規模な一大殺戮工場だった。鉄道の引込み線が、真直ぐに敷地内へ伸び、線路がつきるほどの所に破壊されたガス室と焼却炉の跡が残る。

訪問・見学①

● ワルシャワ

第二次世界大戦による破壊から不死鳥のごとく蘇った緑豊かなポーランドの首都。中世の街並みを感じさせる佇まいを残す旧市街地区、そして至るところにある戦争被害者の碑にこの国の歴史の重みと市民たちの心を感じさせる。シヨバンやキュリー夫人ゆかりの地として有名。

訪問・見学②

● クラクフ

「ポーランドの京都」と呼ばれる美しい古都。ポーランド第二の都市であり、第二次大戦の戦火を免れた中世そのままの姿を残す城壁に囲まれた街。旧市街はユネスコ世界文化遺産に指定され、コペルニクスが学んだヨーロッパ最古のヤグウォ大学に象徴されるように学問の都でもある。

旅の特色

こ だ わ り ②

● 充実・親切な案内物・・・事前の学習の資料も

訪問国・都市・旅のテーマによる詳しい情報資料（訪問国便覧）、滞在都市の地図、各国語ミニ会話集などオリジナルの案内物をお渡しします。訪問する国や都市、見学地などの詳しい案内物で事前の学習を。

● 誠実で質の高い現地ガイドで差がつきます

「いい旅」となるには、ガイドの力は非常に大事。歴史や文化、人々の暮らしや、その地・その国の背景を案内できる誠実なガイドが皆さまをご案内します。

● 団体行動中の買い物は強要しません

一般の旅行のような見学時間を割いてまで土産店へお連れするようなことはしません。訪れた土地の素晴らしいさに、じっくりと触れることができる旅。

旅のポイント・・・ドイツ

● ベルリンの戦跡

戦争の傷跡と分断・統一の歴史を巡る
市内にはナチスの加害を記憶にとどめておくべきシンボルがたくさん存在している。東西ベルリンを隔てた壁の跡や、モニュメントを巡る。

● ヴァンゼー会議記念館 Wannsee Conference

「ホロコースト計画」会議の舞台
1942年1月20日ナチス上層部がラインハルト・ハイドリッヒ（保安警察と本部の長官）を議長に「ホロコースト計画」最終決定の会議が行なわれた場所。1992年にヴァンゼー会議50周年を記念して開設。閑静な保養地の美しい湖（ヴァン湖）の湖畔に建っている。当時の資料を展示している。

